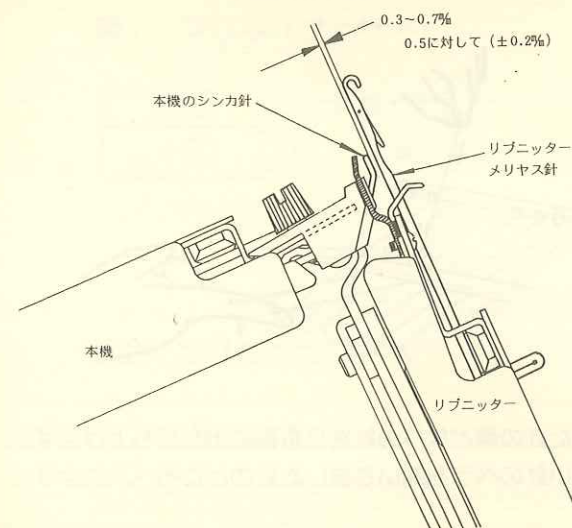


編機の取り扱い、常にご使用前の注意とご使用後のお手入れを怠らないことが編機の寿命を長くする最も大切な要素です。また、一定の速度、一定の力で編むことが美しい編地をつくるコツです。編機の故障は、使い始めの一寸した不注意や無理な操作が原因で起こることが多い様です。万一その様な故障が起きた場合の診断方法です。

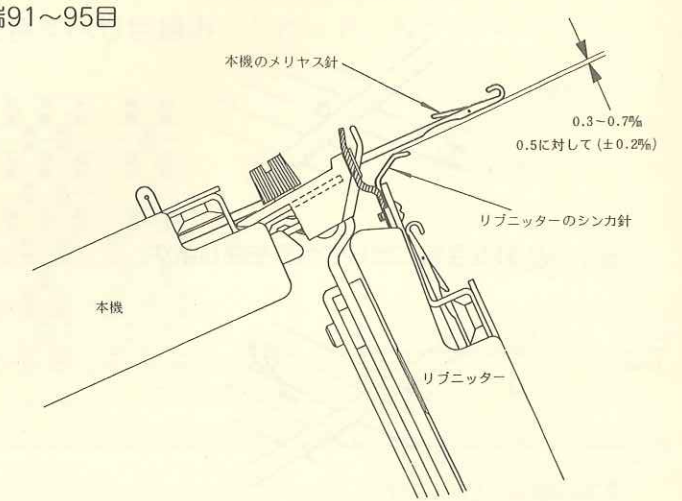
故障状態	順序	点検箇所	原因	対策
左右両端の編地の長さが違う場合	①	オモリのかけ方が正しいかどうかを調べる。	オモリが左右どちらかに片寄ってかけてあると、オモリの効いている方が長くなり、編地の左右の両端の長さが違ってくる。	目数と編出し板とのバランスを確かめ、オモリを平均にかける。
	②	本機に対してリブニッターのミソ板の前後位置寸法が左右違ってないか調べる。	リブニッターの左右両端の91目~95目までのメリヤス針と本機のシンカ針とのすき間が等しくない場合は、左右両端の編地の長さが違ってくる。	リブニッターのミソ板の前後位置寸法を調整する。
	③	本機に対してリブニッターのミソ板の上下位置寸法が左右違ってないか調べる。	本機の左右両端の91目~95目までのメリヤス針と、リブニッターのシンカ針とのすき間が等しくない場合は、左右両端の編地の長さが違ってくる。	リブニッターのミソ板の上下位置寸法を調整する。
②・③・その他が原因と思われる場合は、修理を依頼してください。				
編目のしんか針が浮き上がる	①	メリヤス針のペラの開閉状態、及びフックの曲がりなどがないかを調べる。	ペラの開閉がかたかったり、フックが曲がっているためにペラがフックの中に入ったりしていると、正常に編めないため編目が引き上がる。	メリヤス針を修正するか、新品と交換する。
	②	オモリの使用個数が不足していないかを調べる。	オモリが不足していると編地の下降が悪くなり、メリヤス針にかかっている編目がペラ抜けしないため編目が浮き上がる。	オモリの使用個数を増やす。
	③	ニットバーの使用。 (合細糸や、それより細い糸を使用している場合。)	合細糸や、それより細い糸を使用している場合、またはカードを使ってその模様を編む場合、本機のメリヤス針のフック越しができないため引き上がる。	ニットバーを使用する。
	④	使用糸に対してゲージが細かすぎないか。	糸の太さに適したダイヤルより小さいダイヤルで編むと、ゲージが細かすぎるため編目がペラ越ししなくなり編目が浮きやすくなる。	適応ゲージにするか、オモリの使用個数を増してみる。
両端部の編目がしんか針が浮き上がる		耳かけ、または、くし歯耳かけの使用。 (オモリは耳オモリを使用。)	耳かけ、または、くし歯耳かけ(オモリは耳オモリ)を使用しないと両端部の編地がたるみ、オモリが効かない状態となり、編目が浮きやすく、また、使用したとき10~15段毎に耳かけオモリをかけ換えないとオモリの効果がなくなる。	耳かけ、または、くし歯耳かけに耳オモリをかけ、10~15段毎にかけ換える。
キャリジが動かない		本機針フック部が浮いてないか調べる。	フック部が浮いていると、リブアームのブラシ金具にフックが引っかかる。	本機の針抜き棒を交換する。

故障状態	順序	点検箇所	原因	対策
落ちる編目が		メリヤス針のペラの開閉状態を調べる。	ペラの開閉がかたいと、針ブラシの作用ではペラが開かず編目が落ちる。	メリヤス針のペラを修正するか、新品に交換する。
メリヤス針のペラ及びフックが曲がりやすい	①	本機とリブニッターの前後及び上下位置寸法が適正であるか否かを調べる。	リブニッターのミソ板の前後、及び上下位置寸法が広すぎるとリブニッターのメリヤス針のペラと糸口(組)の後面とが接触してメリヤス針のペラをいためる。	リブニッターのミソ板の前後・上下位置寸法を調整する。
	②	本機とリブニッターのメリヤス針の針合わせを調べる。	半ピッチレバーをHにセットして総ゴム編みを編むとき、本機とリブニッターのメリヤス針が衝突し、本機とリブニッターのメリヤス針をいためる。	針合わせを調整する。
①・②が原因と思われる場合は、修理を依頼してください。				
端目の編目がたるんだり外れた場合	①	アーム及び糸口(組)のバリを調べる。	アームや糸口(組)にバリがあるとバりに糸が引っかかり、両端の編目がたるんだり、外れたりする。	サンドペーパーでバリを取り除く。
	②	テンションの糸の通し方や調節ツマミの合わせ方を調べる。	糸の通し方、調節ツマミの合わせ方などが悪いと、テンションパネの作用が効かなくなり、端目がたるんだり、外れたりする。	糸の通し方、調節ツマミの合わせ方を確認する。
操作が重い		本機又は、リブニッターのミソ板、メリヤス針、レール棒及びキャリジのカム類の注油状態を調べる。	リブニッターのミソ板、メリヤス針、レール棒及びキャリジのカム類などに油気がなくなると、キャリジの動きが悪くなり、キャリジの操作が重くなる。	編機油を布にしみ込ませ、カム類及びメリヤス針等に塗布する。

①ミソ板の前後位置



②ミソ板の上下位置



注：①・②共に針位置は、左右両端91~95目

※ 図は、SRP60N型です。機種により、寸法が変わります。